

病院検査部職員自らの手で世界に先駆け開発

登録番号	第 00255 号		
登録年月日	平成30年8月28日	登録区分	第二種

名称 (型式等)	世界初の病院検査室用自動検体搬送「ベルトラインシステム」
所在地	高知県南国市
	国立大学法人高知大学医学部附属病院
所有者 (管理者)	国立大学法人高知大学医学部附属病院
製作者(社)	高知医科大学附属病院検査部職員
製作年	1984年
初出年	1981年
選定理由	国立医科大で臨床検査技師不足が大問題となっていた1980年代初頭に、高知医科大学（現：高知大医学部）附属病院検査部職員が世界で初めて自ら構想/設計/製作/実用化した、検体系検査室全体をカバーする自動検体搬送システムである。90年代から市販された検体搬送システムの原点となり、現在の自動分析装置にある外部サンプリング機構や自動再検機構なども、この時の開発検討が端緒である。本検体搬送システムはその後の臨床検査数の爆発的増加への対応、ひいては医療の進歩を陰で支えた点で重要である。
登録基準	一ーホ(試行錯誤、失敗の事例など科学技術の継承を図る上で重要な教育的価値を有すもの) 二ーハ(社会、文化と科学技術の関わりにおいて重要な事象を示すもの)

公開・非公開	非公開
写真	
その他参考となるべき事項	